

# Micro Motion® モデル 3500 伝送器 (MVD) / モデル 3300 コントローラ

パネル取り付け用設置マニュアル



## 安全および認定についての情報

ヨーロッパ指令に適合させるためには、マイクロモーション製品を本説明書に従い正しく設置する必要があります。本製品に適用されるヨーロッパ指令については、EC 適合宣言をご参照ください。適用されるすべてのヨーロッパ指令と EC 適合宣言の関連書類、ATEX 設置図面および説明は [www.micromotion.com](http://www.micromotion.com) にアクセスしてご入手いただくか、弊社カスタマケアセンターへお問い合わせください。

圧力容器指令に適用する機器に添付されている情報は、[www.micromotion.com/documentation](http://www.micromotion.com/documentation) からご入手いただけます。

ヨーロッパにおける危険場所での設置については、該当する国や地域の規定が当てはまらない場合、EN 60079-14 のガイドラインに従ってください。

## その他の情報

製品仕様の詳細については製品仕様書を参照してください。トラブルシューティングについては、伝送器の説明書を参照してください。製品仕様書と取扱説明書については、弊社のウェブサイト [www.micromotion.com/documentation](http://www.micromotion.com/documentation) をご参照ください。

## 返品について

弊社では製品の返品手続きが定められております。これは、弊社従業員の作業環境の安全性を維持するために重要な要件となっております。定められた返品手続きが守られない場合、当該製品の返品をお受けできない場合があります。

返品手続きの詳細につきましては、弊社ウェブサイト ([www.micromotion.com](http://www.micromotion.com)) をご参照ください。また弊社カスタマサービス部門までお電話でご連絡いただくこともできます。

## マイクロモーションのカスタマサービス

電子メール：

- 全世界共通：[flow.support@emerson.com](mailto:flow.support@emerson.com)
- アジア太平洋地域：[APflow.support@emerson.com](mailto:APflow.support@emerson.com)

電話番号：

南北アメリカ		ヨーロッパ&中東		アジア太平洋地域	
アメリカ	800-522-6277	イギリス	0870 240 1978	オーストラリア	800 158 727
カナダ	+1 303-527-5200	オランダ	+31 (0) 704 136 666	ニュージーランド	099 128 804
メキシコ	+41 (0) 41 7686 111	フランス	0800917901	インド	800 440 1468
アルゼンチン	+54 11 4837 7000	ドイツ	0800 182 5347	パキスタン	888 550 2682
ブラジル	+55 15 3413 8000	イタリア	8008 77334	中国	+86 21 2892 9000
ベネズエラ	+58 26 1731 3446	中央&東ヨーロッパ	+41 (0) 41 7686 111	日本	+81 3 5769 6803
		ロシア / CIS 諸国	+7 495 981 9811	韓国	+82 2 3438 4600
		エジプト	0800 000 0015	シンガポール	+65 6 777 8211
		オマーン	800 70101	タイ	001 800 441 6426
		カタール	431 0044	マレーシア	800 814 008
		クウェート	663 299 01		
		南アフリカ	800 991 390		
		サウジアラビア	800 844 9564		
		アラブ首長国連邦	800 0444 0684		

---

# 目次

<b>1 章</b>	<b>ご使用の前に.....</b>	<b>5</b>
	1.1 設置キット.....	5
	1.2 場所の選択.....	6
	1.3 ケーブルの長さ.....	8
	1.4 モデル 3300 / モデル 3500 のパネルへの設置.....	9
<b>2 章</b>	<b>取り付け.....</b>	<b>11</b>
	2.1 コアプロセッサの取り付け.....	11
<b>3 章</b>	<b>配線.....</b>	<b>13</b>
	3.1 入力および出力配線の接続.....	13
	3.2 モデル 3500 のセンサへの接続.....	16
	3.3 センサのリモートコアプロセッサへの配線.....	24
	3.4 電源配線の接続.....	25



# 1 ご使用の前に

この設置マニュアルでは、Micro Motion モデル 3300 ならびにモデル 3500 MVD アプリケーションプラットフォームの基本的な設置ガイドラインについて解説しています。

本質安全防爆 (I.S.) アプリケーションの情報については、Micro Motion 認証文書をご参照ください。

構成、保守、運用の詳細手順については、伝送器と併せて納品されるマニュアルをご覧ください。

## ⚠ 警告！

危険区域で不適切な設置を行った場合、爆発する危険性があります。

危険な利用に関する情報については、メータに同梱されている該当の説明書を参照するか、弊社のウェブサイトアクセスし入手してください。

## ⚠ 警告！

危険電圧によって、重篤な負傷または死亡につながる可能性があります。

伝送器を設置し、すべての配線を完了してから電源を入れてください。

## ⚠ 注意！

不適切な設置は、測定エラーやメータの故障の原因となることがあります。すべての手順指示に従ってください。

## 1.1 設置キット

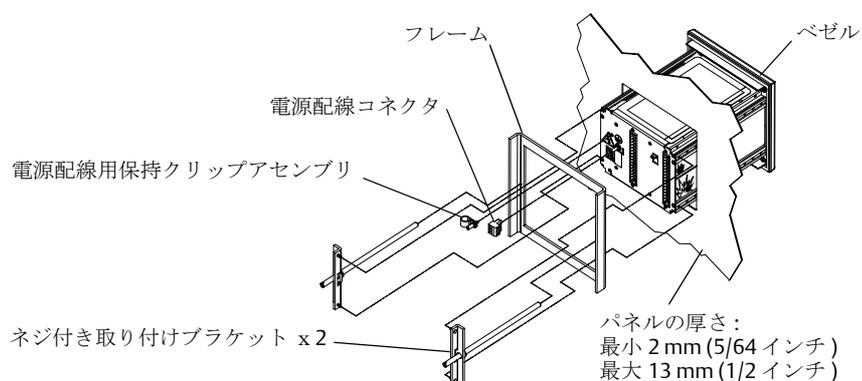
この設置キットには、ベゼル、フレーム、ネジ付きの取り付けブラケット (2 個)、電源配線コネクタ、取り付け用電源配線用クリップアセンブリが含まれています。[図 1-1](#) を参照してください。

アプリケーションのプラットフォームは、2 mm (5/64 インチ) ~ 13 mm (1/2 インチ) の厚さのパネルの 138 mm (5 7/16 インチ) の大きさの正方形の穴に適合します。ベゼルはパネルの穴とアプリケーションプラットフォームのハウジングの間に IP65 防水シールを提供します。[図 1-1](#) を参照してください。

さらに、この設置キットは以下のいずれかが含まれます。

- ネジ式コネクタ用ブラケット付き配線コネクタ。[図 3-2](#) を参照してください。
- I/O ケーブルとコネクタ。[図 3-3](#) を参照してください。

図 1-1: パネル取り付け設置キット



## 1.2 場所の選択

伝送器の設置場所を決める際に、以下に説明する設置要件に合った場所を選んでください。

### 1.2.1 環境要件

モデル 3300 / 3500 は、周囲温度が  $-20 \sim +60^{\circ}\text{C}$  ( $-4 \sim +140^{\circ}\text{F}$ ) の範囲の場所に設置してください。

### 1.2.2 寸法

型式	外形寸法図
ネジ型配線コネクタ	<a href="#">図 1-2</a>
I/O ケーブル	<a href="#">図 1-3</a>

ネジ型配線コネクタと I/O ケーブルを対比させた図については、[図 3-1](#) と [図 3-3](#) を参照してください。

図 1-2: パネル取り付け式ネジ型配線コネクタの寸法

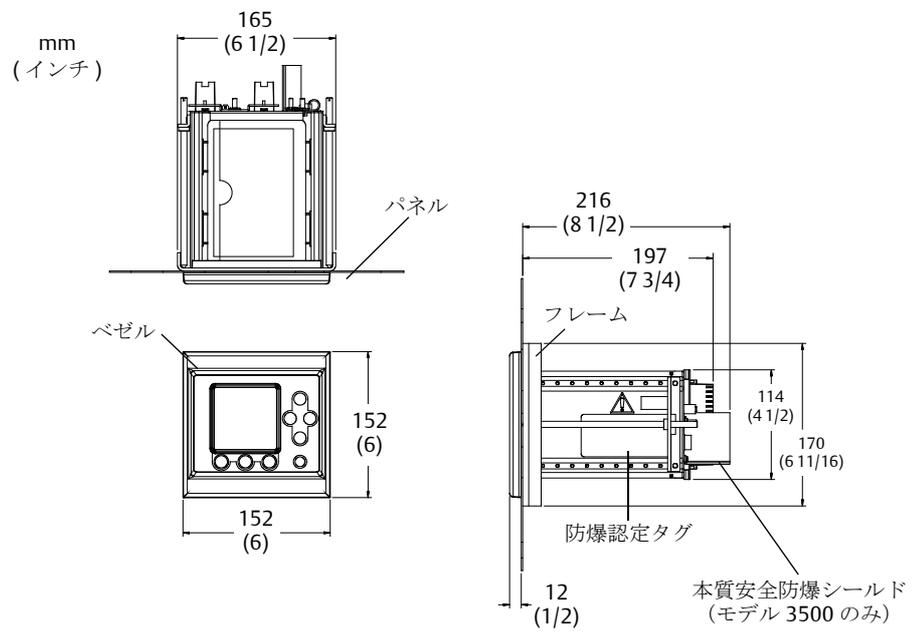
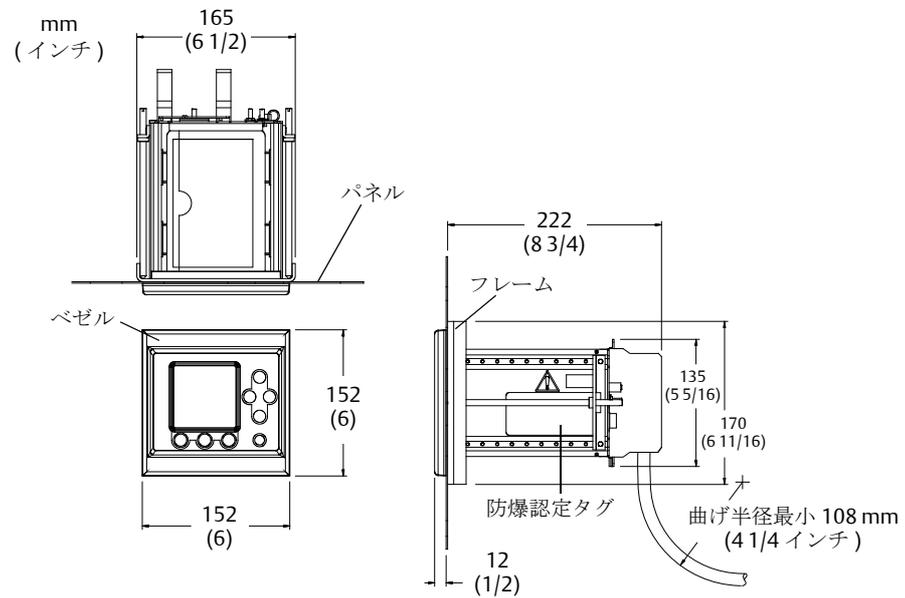


図 1-3: パネル取り付け式 I/O ケーブル付きの寸法



## 1.3 ケーブルの長さ

センサからモデル 3500 伝送器までの最大のケーブル長さは、設置の種類とケーブルの種類により異なります。

設置の種類	最大ケーブル長さ
4 線リモート伝送器	4 線ケーブルの最大長さは図 1-4 と表 1-1 を参照してください。
リモートコアプロセッサ (リモート伝送器付き)	4 線ケーブル、9 線ケーブルの最大長さは図 1-5 と表 1-1 を参照してください。

モデル 3300 アプリケーション用のペリフェラルを伝送器と組み合わせて設置する場合、伝送器の周波数出力とモデル 3300 の周波数入力との最大のケーブル長さは 150 m (500 フィート) となります。

図 1-4: 4 線リモート伝送器

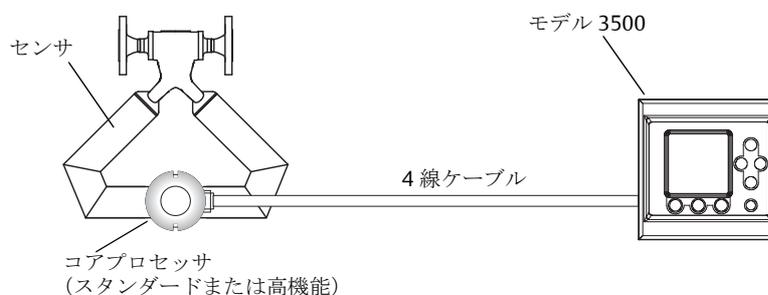


図 1-5: リモートコアプロセッサ (リモート伝送器付き)

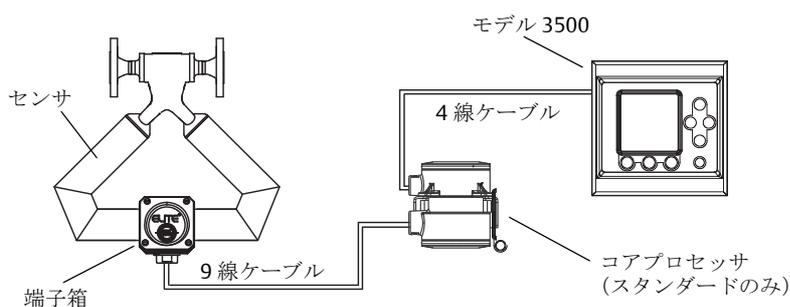


表 1-1: センサと伝送器の間の最大ケーブル長さ

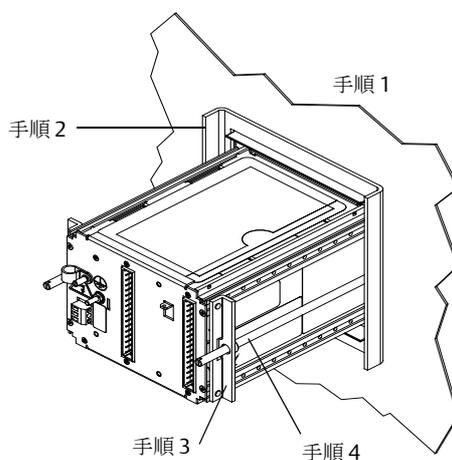
ケーブルタイプ	ワイヤゲージ	最大長さ
Micro Motion 4 線ケーブル	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>300 m (1000 ft) Ex 認定なし</li> <li>150 m (500 ft) IIC 等級センサ付きの場合</li> <li>300 m (1000 ft) IIB 等級センサ付きの場合</li> </ul>
Micro Motion 9 線ケーブル	なし	20 m (60 ft)
客先提供 4 線ケーブル	VDC 0.35 mm <sup>2</sup> (22 AWG)	90 m (300 ft)
	VDC 0.5 mm <sup>2</sup> (20 AWG)	150 m (500 ft)
	VDC 0.8 mm <sup>2</sup> (18 AWG)	300 m (1000 ft)
	RS-485 0.35 mm <sup>2</sup> (22 AWG) 以上	300 m (1000 ft)

## 1.4 モデル 3300 / モデル 3500 のパネルへの設置

図 1-6 を参照して、以下の手順に従ってください：

1. モデル 3300 / モデル 3500 をパネル穴に差し込みます。
- 2.ハウジングにフレームをスライドさせます。
3. ブラケットのポストをハウジングのレールに差し込みます。
4. トルク 1.13 ~ 1.38 Nm (10 ~ 14 インチ・ポンド) でネジを均一に締め、ガスケットとパネルの間の防水シールを確実にします。

図 1-6: パネル設置手順





## 2 取り付け

### 2.1 コアプロセッサの取り付け

リモートコアプロセッサまたはリモート高機能コアプロセッサを使用してリモート伝送器を設置する場合にのみこのセクションを適用します。図 1-5 を参照してください。4 線ケーブルリモートが設置されている場合は、セクション 3.1 に進んでください。

図 2-1 はコアプロセッサと取り付けブラケットの両方のタイプを示しています。取り付けブラケットを使用して、コアプロセッサをセクション 1.2 に説明されているケーブルの長さの要件に従って適切な位置に設置します。

図 2-1: リモートコアプロセッサとリモート高機能コアプロセッサ構成部品

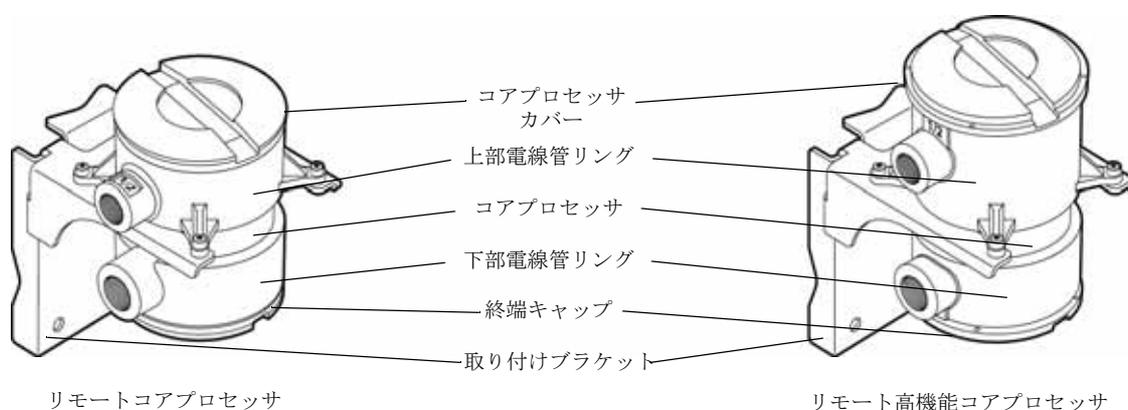




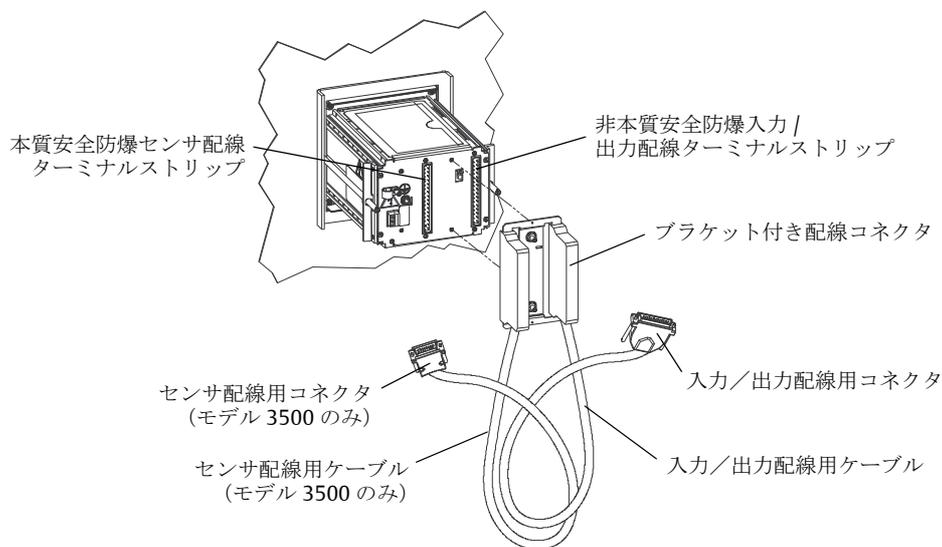


表 3-1: ネジ型コネクタ用入力 / 出力配線ターミナル

ターミナル番号		指定
c 2+	a 2-	プライマリ 4-20 mA 出力 / HART
c 4+	a 4-	セカンダリ 4-20 mA 出力
c 6+	a 6-	周波数入力
c 8+	a 8-	ディスクリート入力 1
c 10+	a 10-	ディスクリート入力 2
c 12+	a 12-	周波数出力
c 14+	a 14-	ディスクリート出力 1
c 16+	a 16-	ディスクリート出力 2
c 18+	a 18-	ディスクリート出力 3
c 32 (B ライン)	a 32 (A ライン)	RS-485 出力

- I/O ケーブル付きのモデル 3300 / モデル 3500 の場合は、ブラケット付き配線コネクタを各モデルの背面パネルのターミナルストリップに差し込んでください。[図 3-3](#) を参照してください。
- キャプティブスクリューを締め付けてブラケットを背面パネルに固定します。

図 3-3: I/O ケーブル用の配線コネクタとターミナル



- 付属の I/O ターミナルブロックを DIN レールに取り付けます。ターミナルブロックは各種レールタイプに取り付けが可能です。[図 3-4](#) を参照してください。
- 入力 / 出力配線用コネクタを I/O ターミナルブロックに差し込みます。
- キャプティブスクリューを締め付けて、コネクタを I/O ターミナルブロックに固定します。
- 入力 / 出力配線を該当する I/O ターミナルブロックのターミナルに接続します。

ターミナルブロックに付いているラベルを参照してください。図 3-5 および図 3-2 を参照してください。

- 0.25 ~ 1.5 mm<sup>2</sup> (24 ~ 16 AWG) シールド付き撚り対線を使用してください。
- シールドは一点でのみ接地してください。

I/O ターミナルブロックの接地は、ユーザーケーブルシールドを I/O ケーブルシールドに接続するために使用可能です。このケーブルコネクタでは、I/O ケーブルシールドをシャーシの接地に接続しません。

図 3-4: DIN レールの I/O 配線向けターミナルブロック設置手順

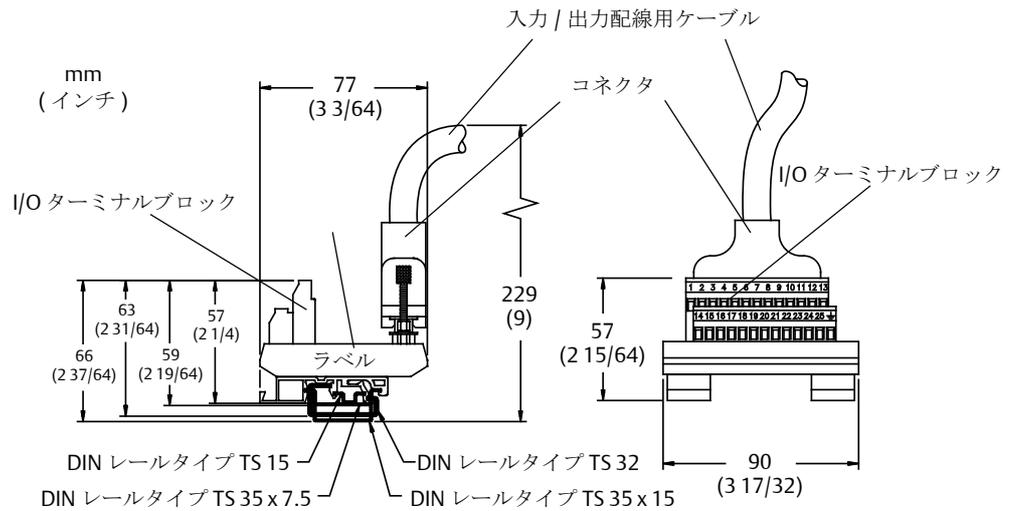


図 3-5: I/O ケーブル用入力 / 出力配線ターミナルラベル

4-20 mA				Discrete 1		Discrete 2										PZ
+	-	+	-	+	-	+	-									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13				
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25					
+	-	+	-	+	-	+	-	+	-	B	A					
4-20 mA HART				Discrete 1		Discrete 2		Discrete 3		RS485						
				1		2		3								

表 3-2: I/O ケーブル用入力 / 出力配線ターミナル

ターミナル番号		指定
14+	15-	プライマリ 4-20 mA 出力 / HART
1+	2-	セカンダリ 4-20 mA 出力
3+	4-	周波数入力
5+	6-	ディスクリート入力 1
7+	8-	ディスクリート入力 2
16+	17-	周波数出力
18+	19-	ディスクリート出力 1
20+	21-	ディスクリート出力 2
22+	23-	ディスクリート出力 3
24 (B ライン)	25 (A ライン)	RS-485 出力

## 3.2 モデル 3500 のセンサへの接続

- モデル 3300 アプリケーション用のペリフェラルを設置している場合には、この手順は不要です。 [セクション 3.4](#) に進んでください。
- モデル 3500 伝送器を Micro Motion センサに接続する場合は、このセクションの手順に従ってください。

### 3.2.1 設置オプション

モデル 3500 は、次の構成のいずれかでセンサに配線することができます：

- 4線ケーブルリモート伝送器(要4線ケーブル)。 [図 1-4](#) および [セクション 3.2.2](#) を参照してください。
- リモート伝送器 (リモートコアプロセッサ付き) (4線ケーブルおよび9線ケーブルが必要)。 [図 1-5](#) および [セクション 3.2.3](#) を参照してください。

### 3.2.2 4線リモート設置の配線手順

1. センサの取扱説明書の記載に従ってケーブルを準備します。
2. センサの取扱説明書の記載に従ってケーブルをコアプロセッサに接続します。
3. ケーブルを伝送器に接続するには：
  - a. 4線ケーブル中のワイヤを確認してください。

Micro Motion 供給の 4 線ケーブルを使用してください。この Micro Motion 供給の 4 線ケーブルは 2 組の 2 線ケーブルから構成されています。1 組 (赤と黒) は 0.75 mm<sup>2</sup> (18AWG) の VDC 接続用です。もう 1 組 (緑と白) は 0.35mm<sup>2</sup> (22AWG) の RS-485 接続用です。

- b. ネジ型コネクタ付きの伝送器の場合は、コアプロセッサからの 4 本のワイヤを伝送器の正しいターミナルに接続してください。

[表 3-3](#) と [図 3-6](#) (標準コアプロセッサ) または [図 3-7](#) (高機能コアプロセッサ) を参照してください。

- むき出しのワイヤをそのままにしないでください。
- 伝送器でシールド、編組、またはドレインワイヤを接地しないでください。

表 3-3: 4 線ケーブル用の伝送器ターミナル

接続の種類		ワイヤの色 <sup>(1)</sup>	機能
ターミナル	I/O ケーブル		
c 4	4	赤	VDC+
a 4	10	黒	VDC-
c 6	7	白	RS-485A
a 6	3	緑	RS-485B

(1) ワイヤの色は Micro Motion 提供の 4 線ケーブルのみに適用します。

図 3-6: ネジ型コネクタ使用のモデル 3500 (スタンダード) とリモートコアプロセッサに接続の 4 線ケーブル

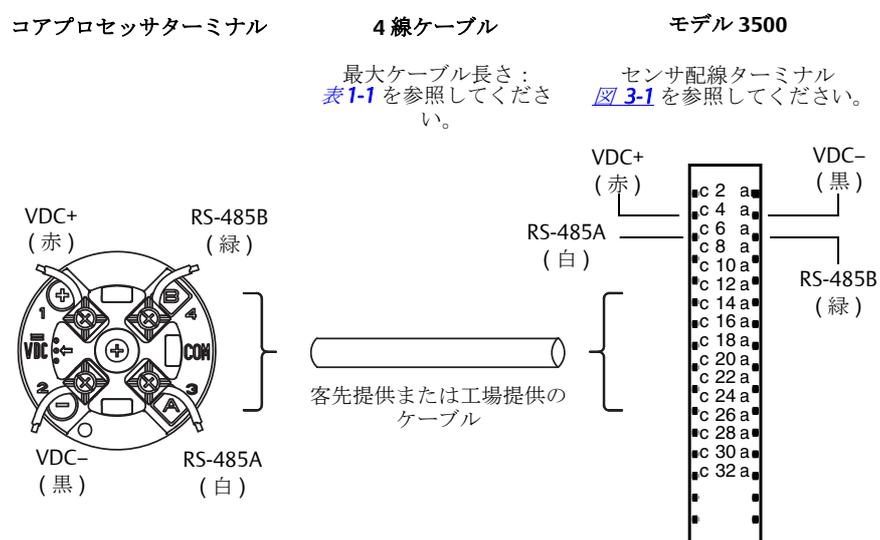


図 3-7: ネジ型コネクタ使用のモデル 3500 (高機能) とリモート高機能コアプロセッサに接続する 4 線ケーブル

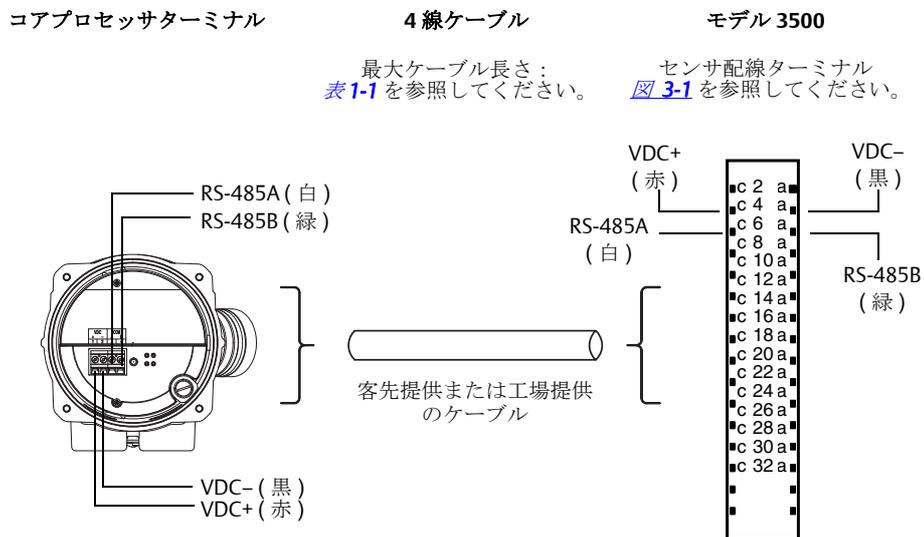


図 3-8: DIN レールのセンサ配線用ターミナルブロック

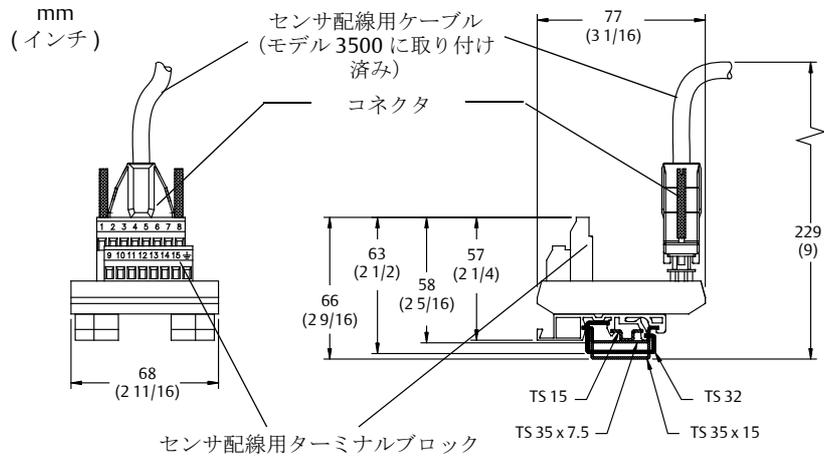


図 3-9: I/O ケーブル使用のモデル 3500 (スタンダード) とリモートコアプロセッサ接続の 4 線ケーブル

コアプロセッサターミナル

4 線ケーブル

モデル 3500

最大ケーブル長さ：  
表 1-1 を参照してください。

DIN レールに取り付け済みのセンサ  
配線用ターミナルブロック

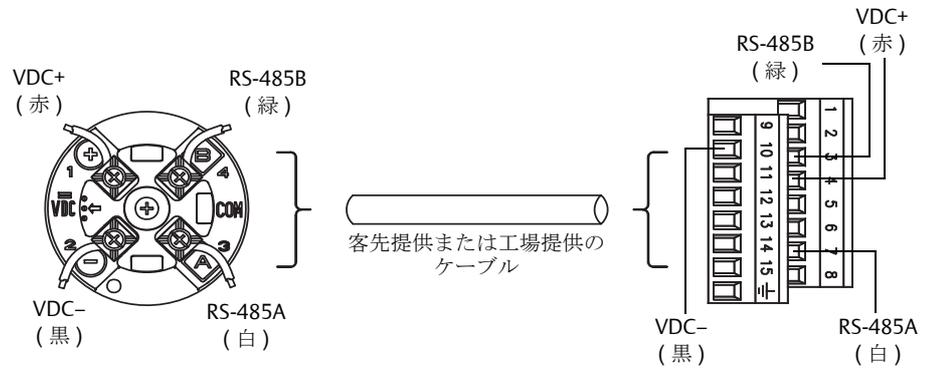
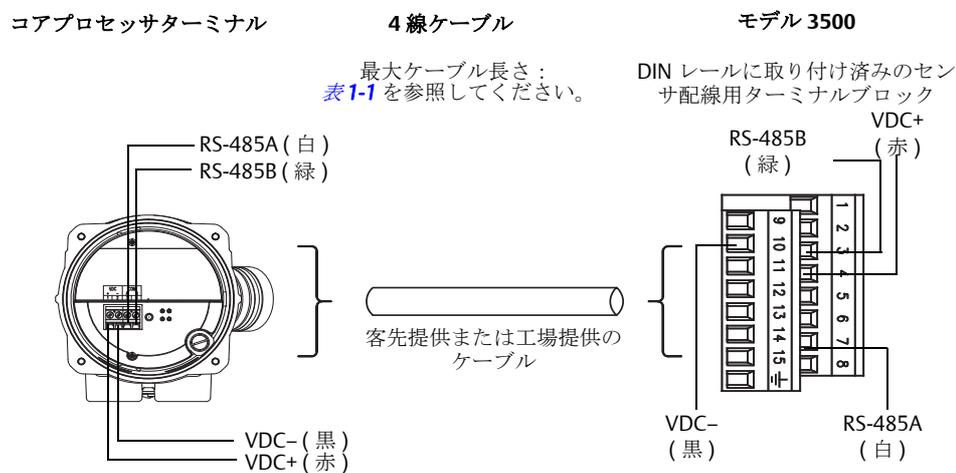


図 3-10: I/O ケーブル付きのモデル 3500 (高機能) とリモート高機能コアプロセッサに接続の 4 線ケーブル



### 3.2.3 リモートコアプロセッサ (リモート伝送器付き) の配線手順

この配線手順は次の 2 段階からなります：

- リモートコアプロセッサの伝送器への配線
- センサのリモートコアプロセッサへの配線

リモートコアプロセッサを伝送器に配線するには：

1. 次の方法のいずれかを使用して、配線をシールドします：

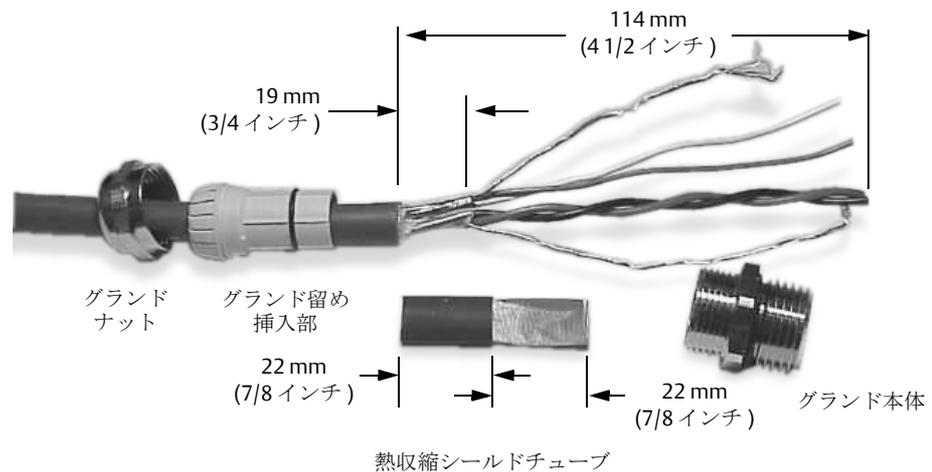
設置方法	手順
内部の配線に 360° の成端シールド処理を提供する連続金属製電線管内の非シールド配線	手順 8 に進んでください
客先提供のシールドケーブルまたは外装ケーブル付きケーブルグラウンド、ケーブルグラウンドのシールドを終端。ケーブルグラウンドのアーマブレードとシールドドレインワイヤの両方を終端	手順 8 に進んでください
コアプロセッサハウジングの Micro Motion 提供のケーブルグラウンド	手順 2 に進んでください

2. 以下のいずれかを実行します：

- シールドケーブルを使用する場合、ケーブルの準備を行い、熱収縮シールドチューブを手順 6 のように取り付けます。この熱収縮シールドチューブは、ケーブルのシールドが編組でなくホイルで構成されている場合にグラウンドに対しシールド終端を提供します。手順 3 に進んでください。
- 外装ケーブルの場合は、手順 6 の記載に従ってケーブルを準備しますが、熱収縮チューブは取り付けずに、手順 6d、e、f、g は省いてください。手順 3 に進んでください。

3. 図 2-1 に示されている構成部品を確認します。
4. コアプロセッサカバーを取り外します。
5. ケーブルの上にグラウンドナットとグラウンド留め挿入部をスライドさせます。  
図 3-11 を参照してください。

図 3-11: グラウンドナットとグラウンド留め挿入部



6. コアプロセッサハウジングの接続については、シールドケーブルを次に従って用意してください（外装ケーブルの場合は **d**、**e**、**f**、**g** を行う必要はありません）。
  - a. ケーブル被覆を **114 mm (4 1/2 インチ)** の長さだけ剥がします。
  - b. ケーブル被覆の内側にある透明のラップを取り去り、ワイヤ間の充填材を取り除きます。
  - c. 絶縁ワイヤの周りのホイルを取り去り、**19 mm (3/4 インチ)** の長さだけホイルを残すか編組とドレインワイヤを出してワイヤをほぐします。
  - d. 露出したホイルの周りにシールドドレインワイヤを **2** 回巻き付けます。  
図 3-12 を参照してください。余ったワイヤは切り取ってください。

**図 3-12: 露出したシールドホイルの周りに 2 回巻き付けたシールドドレインワイヤ**

- e. 熱収縮シールドチューブを露出したままになっているシールドドレインワイヤの上に被せます。チューブがドレインワイヤを完全に覆うようにしてください。
- f. ケーブルを焦がさないようにチューブに熱を加えて (120 °C または 250 °F) チューブを収縮させます。図 3-13 を参照してください。

**図 3-13: 露出したドレインワイヤを熱収縮シールドチューブで完全に覆う**

- g. 内部終端が熱収縮チューブと同じ高さになるようにグラウンド留めの挿入部の位置を決めます。
- h. クロスシールドまたは編組とドレインワイヤをグラウンド留めの挿入部上で O リングを約 3mm (1/8 インチ) 越えるように折り返します。図 3-14 を参照してください。

**図 3-14: 折り返したクロス**

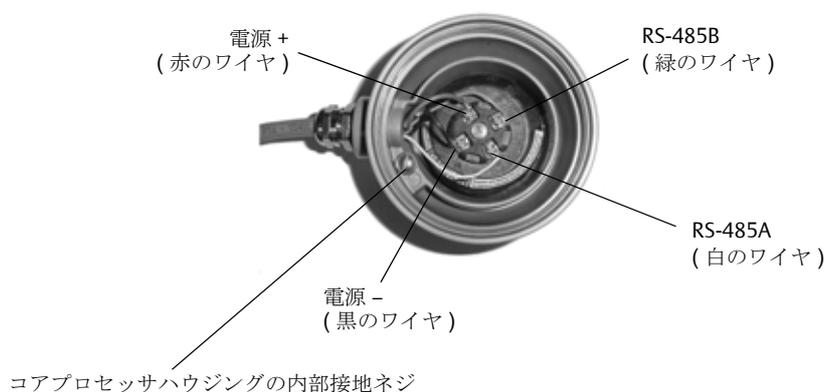
- i. グラウンドの本体を、コアプロセッサハウジングの電線管接続口に挿入してください。図 3-15 を参照してください。

図 3-15: グランド本体の取り付け



7. ワイヤをグランド本体を通して挿入し、グランドのナットを締め付けてグランドを組み立てます。
8. 4 線ケーブル中のワイヤを確認してください。  
この Micro Motion 供給の 4 線ケーブルは 2 組の 2 線ケーブルから構成されています。1 組 (赤と黒) は  $0.75 \text{ mm}^2$  (18AWG) の VDC 接続用です。もう 1 組 (緑と白) は  $0.35 \text{ mm}^2$  (22AWG) の RS-485 接続用です。
9. 4 本のワイヤをコアプロセッサの番号が付いたスロットに接続してください。  
図 3-16 を参照してください。

図 3-16: 4 本のワイヤを番号が付いたスロットに接続



10. アース接地が必要な場合はコアプロセッサハウジングの内部接地ネジに接続します。アース接地は、コアプロセッサがセンサの配管経由では接地ができず、地域の規制で内部接地接続が必要とされる場合に必要となります。  
シールドドレインワイヤはこのターミナルに接続しないでください。
11. コアプロセッサカバーを再度取付けて締め付けます。

**⚠ 警告！**

センサの損傷を防ぐため、コアプロセッサを強くねじり込まないでください。

12. ケーブルを伝送器に接続します。

接続の種類	手順
ネジ型配線コネクタ	<p>コアプロセッサからの4本のワイヤを伝送器の正しいターミナルに接続します。表3-3および図3-6を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワイヤをむき出しにしないでください。</li> <li>伝送器でシールド、編組、またはドレインワイヤを接地しないでください。</li> </ul>
I/O ケーブル	<ol style="list-style-type: none"> <li>付属のターミナルブロックをDIN レールに取り付けます。このターミナルブロックは各種レールタイプに取り付けが可能です。図3-8を参照してください。</li> <li>I/O ケーブルコネクタをターミナルブロックに接続します。キャプティブスクリューを締め付けて、コネクタをターミナルブロックに固定します。</li> <li>コアプロセッサからの4本のワイヤをターミナルブロックの該当するターミナルに接続します。表3-3および図3-9を参照してください。ケーブルの被覆を剥がした部分が外に露出しないようにしてください。トランスミッタでシールド、編組、またはドレインワイヤを接地しないでください。</li> </ol>

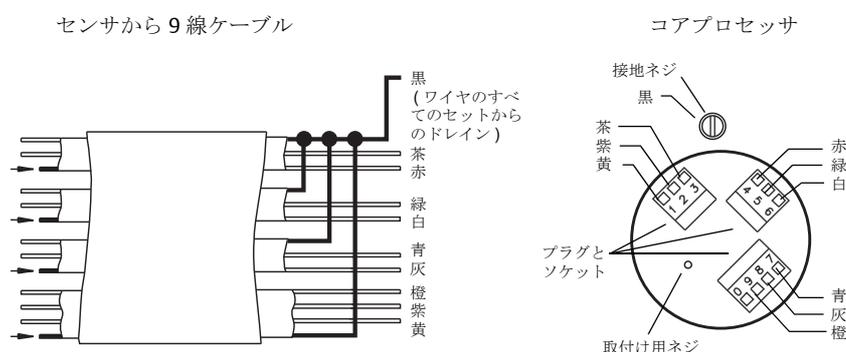
### 3.3 センサのリモートコアプロセッサへの配線

#### ⚠ 注意！

計器エラーの原因となる場合がありますので、シールドドレインワイヤがセンサの端子箱に触れないようにしてください。

- ケーブルのシールド方法と準備については、Micro Motion の「9 線式流量計ケーブルの準備と設置ガイド」を参照してください。
  - センサ側で、ケーブルの種類に応じて手順説明に従ってください。
  - コアプロセッサ側で、MVD 伝送器のケーブルの種類に応じて手順説明に従ってください。
- ワイヤを接続するには、MVD 伝送器のセンサの種類に応じて、Micro Motion の「9 線式流量計ケーブルの準備と設置ガイド」を参照してください。コアプロセッサ側のワイヤの配線についての追加情報は以下のとおりです：
  - 図2-1に示されている構成部品を確認します。
  - コアプロセッサの終端キャップを取り外します。
  - 9 線ケーブルを電線管開口部を通して挿入します。
  - ワイヤをコアプロセッサに付属しているプラグに接続します。
  - プラグを下部電線管リングの内部にあるソケットに差し込みます。図3-17を参照してください。

図 3-17: コアプロセッサへの 9 線ケーブル



## 3. ケーブルを接地します。

ケーブルタイプ	手順
被覆ケーブル	シールドドレインワイヤ（黒ワイヤ）の接地は、下部電線管リングの内側にある接地用ネジをコアプロセッサに取り付け、コアプロセッサ側でのみ行ってください。コアプロセッサの取り付けネジには絶対に接地しないでください。センサの端子箱のケーブルは絶対に接地しないでください。
シールドケーブルおよび外装ケーブル	シールドドレインワイヤ（黒ワイヤ）の接地は、下部電線管リングの内側にある接地用ネジをコアプロセッサに取り付け、コアプロセッサ側でのみ行ってください。コアプロセッサの取り付けネジには絶対に接地しないでください。センサの端子箱のケーブルは絶対に接地しないでください。  両端のケーブル編組をケーブルグラウンド内で終端処理した上で接地します。

## 4. ガasketに傷がないことを確認し、すべてのOリングにオイルを塗布して、端子箱ハウジングとコアプロセッサの後端キャップ閉じ、すべてのネジを締め付けます。

## ⚠ 注意！

測定エラーやメーターの故障を防ぐため、ハウジングを閉じるときにワイヤが引っかかったり挟まったりしていないか確認してください。

## 3.4 電源配線の接続

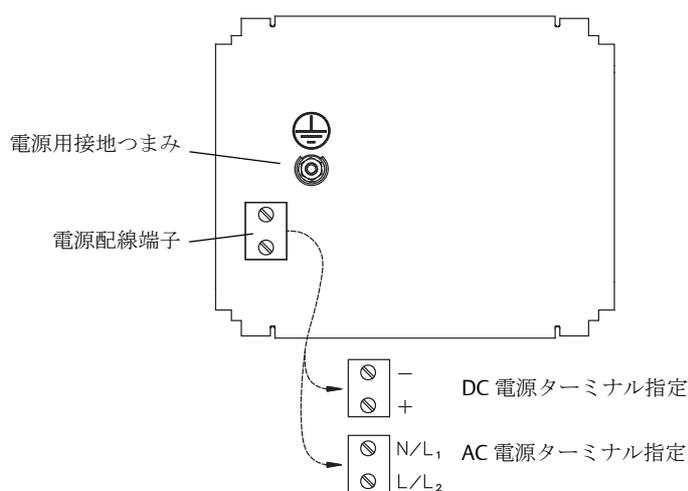
## ⚠ 注意！

- 計測や機器エラーを防ぐため、入力/出力配線と同じケーブルトレイや電線管に電源配線を入れないでください。
- アプリケーションプラットフォームを設置する前に、必ず電源を落としてください。
- 電源電圧が電源配線ターミナルに示されている電圧に一致していることを確認してください。図 3-18 を参照してください。

モデル 3300 またはモデル 3500 の電源を以下の手順に従って接続します：

1.  $0.75 \sim 2.5 \text{ mm}^2$  (18 ~ 14 AWG) のワイヤを電源配線コネクタに配線します。[図 1-1](#) を参照してください。
2. 伝送器の接地手順は次のとおりです：
  - a. 接地ワイヤを緑の電源接地ネジに接続します。[図 3-1](#) を参照してください。
  - b. アース接地に電源接地ワイヤを直接接続します。
  - c. すべての接地リード線はできるだけ短くしてください。
  - d. 接地配線は必ずすべてインピーダンスが 1 オームより小さくなるようにしてください。
3. 電源配線コネクタを電源配線ターミナルに接続します。[図 3-18](#) を参照してください。
4. 保持クリップを配線の上にスライドさせてから、ネジを締めてクリップを所定の位置に固定します。[図 1-1](#) を参照してください。
5. (オプション) 電源供給線に客先提供のスイッチを取り付けます。  
欧州では、スイッチを指令 2006/95/EC に従いモデル 3300 とモデル 3500 に近接して取り付ける必要があります。詳細については、EN 61010-1:2010 条項 5.4.3.d. を参照してください。

図 3-18: 電源配線端子







20000898  
Rev BA  
2015

**Micro Motion Inc. USA**

Worldwide Headquarters  
7070 Winchester Circle  
Boulder, Colorado 80301  
電話 +1 303-527-5200  
電話 +1 800-522-6277  
FAX +1 303-530-8459  
[www.micromotion.com](http://www.micromotion.com)

**Micro Motion Europe**

Emerson Process Management  
Neonstraat 1  
6718 WX Ede  
The Netherlands  
電話 +31 (0) 318 495 555  
FAX +31 (0) 318 495 556  
[www.micromotion.nl](http://www.micromotion.nl)

**Micro Motion Asia**

Emerson Process Management  
1 Pandan Crescent  
Singapore 128461  
Republic of Singapore  
電話 +65 6777-8211  
FAX +65 6770-8003

**Micro Motion United Kingdom**

Emerson Process Management Limited  
Horsfield Way  
Bredbury Industrial Estate  
Stockport SK6 2SU U.K.  
電話 +44 0870 240 1978  
FAX +44 0800 966 181

**Micro Motion Japan**

Emerson Process Management  
〒 140-0002  
東京都品川区  
東品川 1-2-5  
電話 03 5769-6803  
FAX 03 5769-6844

©2015 Micro Motion, Inc. All rights reserved.

Emerson のロゴは、Emerson Electric Co. の商標およびサービスマークです。Micro Motion、ELITE、ProLink、MVD、およびMVD Direct Connect のマークは、Emerson Process Management のいずれかの関連会社のマークです。その他の商標は全て、それぞれの所有者に帰属します。

